

令和6年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

【令和5年度事業対象・ダイジェスト版】



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

令和5年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1) 教育委員会における点検・評価

事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2) 学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、府中商工会議所 専務理事 石川裕洋氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されています。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置し、活動しています。

令和6年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期	
教 育 長	荻 野 雅 裕	令和3年10月3日～ 令和6年10月2日	1期目
教育長職務代理	高 橋 良 昌	令和2年12月19日～ 令和6年12月18日	2期目
委 員	和 知 啓 子	令和3年10月1日～ 令和7年9月30日	2期目
委 員	藤 井 美 砂 緒	令和5年7月3日～ 令和9年7月2日	2期目
委 員	森 山 直 洋	令和4年12月19日～ 令和8年12月18日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など、令和5年度は13回の教育委員会会議を開催し、41議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教育政策課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
地産地消の取組	現状維持	現状維持	
歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備	現状維持	現状維持	
地域の教育力の向上	現状維持	現状維持	
上下高校の魅力開発支援	事業改善	事業改善	
備後国府史跡保存・活用事業	現状維持	現状維持	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
学校内軽食ブース設置等学びの環境整備	事業改善	事業改善	
特別支援教育・特別支援教育支援員の充実	事業改善	事業改善	
コミュニティ・スクールの推進	事業改善	事業改善	
小中一貫教育	事業改善	事業改善	
GIGA スクールネットワーク推進	事業改善	事業改善	
「ことば探究科」推進展開事業	事業改善	事業改善	
「未来を拓く！」府中市学力向上事業	事業改善	事業改善	
放課後ラーニング・サポート事業	現状維持	現状維持	

iii 外部有識者による評価

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月8日から法律上の5類に位置付けられコロナ禍前の環境に戻ってきました。教育行政においても学校活動等で子ども達が比較的自由に取り組むことができるようになり、元気な声がどんどん地域においても響くようになってきたことは、これからの取組がコロナ禍前と同様に積極的に行なえることを期待させました。

とは言え、これまでコロナ禍で試行錯誤をしながら新たな取組を進めてきたことは大きな財産であり、これからの教育に生かしていかなければならない取組で

す。特に、ICTを活用した取組により、学校・家庭・地域が関りを増し、学びの輪を広げ、豊かな教育環境の発展につながったことは、継続して取組む必要があります。

1 学校教育の充実

府中市の学校教育は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの仕組みの中で発展・成長してきました。現在、学校数は10校を運営していますが、今後、児童生徒数が大きく減少していくことが予想される中で、教育内容の充実を第一として、また、地域性も考慮し、子供たちが愛郷心を育み、地域で活躍する人材となっていくための取組が重要であると考えています。

コミュニティ・スクールの取組は、既に10年を迎えさらに進化・発展する必要があります。スタート時の志を持って取組を推進してきた方も年々異動する中で、原点に立ち返って、児童生徒が主体となり学校や地域との関りを再構築する時期に来ているのではないのでしょうか。地域の縮図が学校であり、地域と学校は切り離せない関係にあるように思います。

小中一貫教育は、スタートして20年が経過しました。全国的にも早くから取り組みを進め、これまでの経験による多くの知見は他地域に比べ突出したものと認識しています。このことを生かして、在籍する教職員の資質向上はもとより、児童生徒の学力向上・学び続ける価値観を持って未来を切り拓く力を育んでいただくことを期待しています。

ICTリテラシーの向上について、急速に進むAI技術によって10年後の未来は大きく変わった姿となっていることが予想されます。AIの得意な部分は知的労働部分と言われているようですが、AIは制限や仕組みを適正に管理しなければ誤った判断をするとも言われています。これからのSociety5.0時代を生き抜くため、ICTを適正に運用・活用するための資質を身に付け、学びを深めていただくことを期待します。

学校教育の充実は、教職員個々に任せることはできません。府中市教育委員会として、研修の充実や教育課題や教育方針を明確化し、組織として共有することが重要です。「教育都市ふちゅう」の実現へむけ、主体的・対話的で深い学びの実現のため人材の育成、教育内容の充実を図られることを期待します。

2 生涯学習の推進

生涯学習とは、家庭教育や学校教育、社会教育、個人の自学自習など、人々が生涯にわたって取り組む学習のことと文部科学省では定義しています。しかし、府中市においては、公民館活動に見られる趣味的活動を含む学びと学校外のスポーツや文化的活動を学校教育とは分けて取組んでいるように見受けられることがあります。学び続けるという視点から見れば、学校教育から成人後の学び直しも含め、スポーツや文化活動にいたるまで、年代や所属による区分けだけではなく、分野別の活動として生涯を通じて取組むことも検討すべきことではないかと感じています。

地域における生涯学習拠点は、主に公民館ですが、場所を単位として地域をま

とめることも必要ですが、横の連携をつないでいくためには、既にできているものもあると思いますが、学びの内容によって地域間の連携を図ることも必要なことではないでしょうか。

さらに、公民館活動を充実させるためには、ICTの活用は不可欠であり、活動推進員の資質の向上や主体的で創造性のある取組ができる人材育成にも努めていただきたいと思います。

また、教育委員会からスポーツ振興に関することなどが市長部局へ移行していますが、生涯学習の観点からは連携することは必要であり、部局を超えて引き続きの連携が強固となることを期待しています。

3 その他

府中市においては、人口減少・少子高齢社会が進んでいます。特に市域の周辺地域においては、児童生徒の減少と住民の高齢化は急速に進んでいます。その中であって、どの地域でも学びが保証されている環境は素晴らしいことであると考えています。そのことを維持発展させるためには、教育委員会がキャプテンシーを発揮し、地域住民や企業、或いは関係住民を巻き込んで積極的に創造的・発展的な方針を提示し、互いに共有し、協働した取組を進めていただくことを希望します。

また、これまで府中市教育行政は、一步一步確実に「教育都市ふちゅう」に向けて成果を積み重ねてきていると思っています。これからも、様々な社会情勢の変化により教育環境は厳しい状況に直面することがあると思いますが、その都度、逆境をチャンスと捉え、果敢に挑戦することを期待しています。

新型コロナウイルス感染症についてまだまだ収束が見通せない中、この2年間ずっと学校生活においても日常生活においてもコロナと共存し、様々な教育活動を進められました。そして新型コロナウイルス感染症については、1月27日に感染症対策の基本的対処方針が改定され、令和5年5月8日から、法律上の2類から5類感染症に位置づけることとなりました。新型コロナウイルス感染症により、教育行政また子どもたちの学校生活等における様々な活動が大きな影響を受けましたが、そういった状況の中においても、いろいろなやり方を模索し、ICT環境の整備、ICTを活用した取組の広がり、学校、家庭、地域が集いともに関わりあう学び等進めた取組を生かし、さらに様々な活動へと展開していくことを期待するものです。

1 学校教育の充実

府中市の教育は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを教育の柱として、GIGAスクールネットワークの推進、新教科「ことば探究科」の創設、校内軽食ブースの設置、放課後ラーニング・サポート（らんさぼ）の設置など多様な教育施策を展開し、自らの可能性とチャンスを最大限に生かすことができるよう様々なチャレンジも進められています。

GIGAスクールネットワークの推進については、全ての子供たちにタブレット端末が配備され、日々の授業等での活用が日常的になってきています。より効

果的に積極的に学びに活用し、力を伸ばしていく取組を期待します。

教育課程の特例を市内全校に適用させた新教科「ことば探究科」については、授業力向上のための研修会や公開授業の実施など各校のことば探究科の授業の質を高めるとともに他の教科等の学びの中でも発揮できるよう取り組まれています。全ての学習の基盤となることばの力を引き続き、子供たちがしっかり身に付けることができるよう、さらなる研修と内容の充実に向けた取組を期待します。

また、児童が選んで参加でき、日々の学習を確認・定着させることができる「新しい学びの場所」として放課後の校内に「放課後ラーニング・サポート（らんさぽ）ルーム」が新たに開設されました。学力向上と学習意欲の維持向上を目指し、学びの選択肢も増やす取組を進めていきたい。

そして、コミュニティ・スクールについては、CSフォーラムが開催され、各学校運営協議会での熟議の充実が図られています。学校だけでできないことがその地域の方に入っていただくことで広がり、子供たちの豊かな教育活動につながっていると感じます。各学校の特色・個性を生かしながら、継続的に意欲的な取組につながるよう進めてほしいと願います。

今年度、特別教室への空調設備の設置が完了しています。これにより校舎内のすべての教室に空調設備が整備されたこととなります。引き続き安全安心で最新の学習環境を児童生徒に提供できる教育基盤の整備を進めていきたい。

2 生涯学習の推進

地域の人材が学校運営に関わり、取組を展開しているコミュニティ・スクールに地域の拠点施設である公民館が関わることで、学びを通じた地域づくり、子供たちの育成を推進し、社会教育及び生涯学習活動を充実させるため、公民館に活動の中心となる職員を配置されました。そして公民館の実施する講座をはじめ、困りごとや地域の課題解決につながる学びを進められています。また、公民館ごとに設置していた公民館運営審議会を市で一つとすることにより、市全体の公民館活動の方向性を共有する仕組みが整えられ、これによって全館のネットワークも強化され、生涯学習機能の全体的なレベルアップと内容の充実が図られています。

公民館の「つどう・まなぶ・つながる」という3つの機能を向上させ、小中学生も含む多くの市民が、活動しやすい、主体的に取り組める学びの場の整備・充実を引き続きお願いするとともに、各地域の公民館において、それぞれの地域の特徴を生かして展開されている公民館活動の価値や魅力を府中市全体で共有し広げていくことも期待したい。そして学校との協働活動の活性化を図り、地域における教育の充実を引き続き公民館が大きな役割を担っていくことを期待します。

3 その他

学校教育・生涯学習ともに一つ一つの課題に向き合い、新たなチャレンジにも積極的に取り組まれ、環境整備も整い、評価すべきものと思います。そして、環境が整った今だからこそ、次の段階として居心地の良い空間づくりを展開してい

ただきたいと思います。教育委員在職中に市内外の学校訪問をしましたが、建物の外観、材質、色、照明等で醸し出される空気が違います。毎日通うのが苦ではない、むしろわくわくするような環境づくりを期待します。取組についても確かに一つ一つ不可欠な取組ではありますが、子供たちや教職員が疲弊する枷になっていないか等調整をしていただきたいと思います。

教育委員会の舵取りによって、教育の更なる発展を期待すると同時に、学校や公民館等が市民の笑顔であふれる場所となるよう祈念します。

IV まとめ

令和5年度の評価については、第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な13事業について点検・評価を行い、継続しつつ、実施事業をさらに展開させるべく業務改善の評価が多くみられた。

人々の価値観が大きく変化し、多様化していく中において、お互いを認め合い、全ての人が自分らしく幸せを感じられる人生やよりよい社会を創造・実現していくためには、一人一人の資質・能力を高めていくとともに自ら考え行動できる力を付け、自分たちが考える機会を増やしていく教育を進めていく必要があります。いろいろなやり方を模索しながら進めてきたこれまでの取組を生かし、学校、地域住民や関係団体等と連携・情報共有しながら、より効果的、主体的な学びに挑戦していく。